

お盆の準備

なぜ仏壇を飾り 精霊棚をしつらえたりするのか

魂棚の奥 なつかしや親の顔(去来)

先祖の霊をお迎えし、そして送るのですから、お盆の準備はしっかりとしておきたいもの。まず仏壇を掃除し、供える花や野菜、果物などを用意します。

仏壇が一般家庭に普及するようになったのは江戸時代になってからです。それ以前は、お盆には先祖を迎える棚をつくるしきたりがありました。「精霊棚」しりょうりょうだなはその名残りともいえます。

部屋のスペースなど精霊棚がつけられない場合は、仏壇をお盆にふさわしいように飾り、野菜などを供えたいものです。

または仏壇の前に小机を置き、新品のテーブルクロスを敷き、故人の好物などを供えたらいかげんでしょうか。

精霊棚は先祖さまが 休まれる部屋

遠方で暮らしている兄弟やお客が訪ねてくる時、どうしますか。たいていは部屋を掃除して、その

人の好物を用意するなどしてお迎えするのが普通です。それがもてなしの心です。

お盆は一年に一度、先祖・亡き父母が、遠いところから帰ってくるのです。お盆とは仏さまの里帰りの日、昔から私たち日本人は、そう考えてきました。

帰ってこられた故人がゆったりとお休みになられるよう、部屋を用意し、ご馳走をどうぞ、というのが「精霊棚」をつくる理由です。

キュウリの馬、 ナスの牛の意味

「精霊棚」でおなじみなのは、キュウリとナスで作った、馬や牛の動物です。

キュウリの馬は少しでも早く、

先祖に帰ってきてほしい心をあらわしたものです。

ナスの牛は、おみやげを持ってゆつくりお帰り下さいという心です。先祖を大切にする昔の人の心が偲ばれます。

「精霊棚」は十三日までに飾ります。篠竹で骨組みし、棚の上に真菰の盆ゴザを敷きます。四方に縄を張る。お供え物は、キュウリの馬、ナスの牛、季節の野菜、ソーメン、団子、故人の好物など。

水の子（ナスなどをきざみ、ハスや芋の葉の上に、水、洗った米を一緒に入れたもの）。ナスの種子が百八つの人間の煩惱に比されており、これを供えることは、すべての餓鬼に施すこと、という意味があります。位牌も精霊棚の上に安置します。

